

パラメーターに関する文献調査

小型海藻 炭素含有率

現地調査で見られた小型褐藻類の知見は乏しく、コンブやモク類など大型褐藻の知見も使えないため、現地で見られたモロイトグサなどを想定して、小型紅藻類を中心に文献を収集した。ただし、サンゴモ目など石灰質状の海藻は不適と考え、除外し平均化した値を採用した。

表 1 小型海藻に関する文献調査

種	炭素含有率	出典
マクサ	0.38	1. 秋元ら2017
サンゴモ目ウスカワカニノテ	0.16	1. 秋元ら2017
マクサ	4月0.361	2. 吉田ら2001
	7月0.401	
	1月0.369	
カバノリ	0.31	2. 吉田ら2001
オキツノリ	0.3	2. 吉田ら2001
フダラク	0.3	2. 吉田ら2001
フシツナギ	0.25	2. 吉田ら2001
ベニスナゴ	0.31	2. 吉田ら2001
サンゴモ目カニノテ	0.15	2. 吉田ら2001
サンゴモ目ビリヒバ	0.15	2. 吉田ら2001
マクサ	0.39	3. 村岡2003
タンバノリ	0.33	3. 村岡2003
平均（サンゴモ目除く）	0.34±0.04	

表 2 収集文献リスト

No.	文献名
1	秋元ら, 港湾構造物における炭素量を用いた生物現存量の定量評価の試み, Journal of Advanced Marine Science and Technology Society, 2017, Vol.23, no.1 pp37-45.
2	吉田ら, 広島湾に生育する海藻類の炭素・窒素含量とその季節変化, 瀬戸内海区水産研究所研究報告, 2001, 3号, p53-61.
3	村岡大祐.『三陸沿岸の藻場における炭素吸収量把握の試み』. 東北水研ニュース. 2003, vol.65, pp2-4.